

有機イオン対の触媒化学

浦口 大輔 教授

(触媒科学研究所 分子触媒研究部門)



2020年12月1日 (火) 16:00-17:00

方式：オンライン (Zoom)

会議リンク：

<https://us02web.zoom.us/j/87284082790?pwd=WGRnNVh5TVVrdkNDN1Y4UVlVNGt0QT09>

ミーティングID: 872 8408 2790 パスコード: 613733

イオン反応は有機合成化学における最も基本的な結合形成プロセスであり、これを自在に制御できる触媒の開発、特に光学活性化合物を与えるキラルな分子触媒の創製は重要な課題とされている。反応活性なイオン性化学種を制御するための戦略として、キラルな対イオンとのイオン対形成により生じる反応場を利用するものは最も直接的な手法と位置付けられる。しかし、複雑なイオン交換プロセスや、本質的に距離と方向があいまいなイオン間力といった要素が、この形式の触媒系に潜在する力を十分に活かした反応制御戦略の立案を妨げていた。これに対し我々は、水素結合のような二次相互作用をイオン間力と協働させることで構造の定まったキラル反応場が生成し、結合形成を精密に制御できると考え研究を展開してきた。本講演では、これまでの研究成果について概説する。

2002年3月北海道大学大学院理学研究科化学専攻博士課程後期課程修了 博士(理学), 2002年4月日本学術振興会特別研究員(PD)(京都大学, インディアナ大学, 東北大学), 2004年10月(財)相模中央化学研究所研究員, 2006年5月名古屋大学大学院工学研究科助手, 2007年4月同助教, 2008年1月同講師, 2011年10月同准教授, 2020年11月北海道大学触媒科学研究所教授(現職)
有機合成化学協会研究企画賞(武田薬品工業)(2008), 日本化学会第60回進歩賞(2010), 科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞(2011), Banyu Chemist Award (BCA 2012)(2012), Lectureship Award MBLA (MBLA2013)(2013), Thieme Chemistry Journal Award 2014(2013)

問合せ先: 触媒科学研究所・長谷川 淳也(hasegawa@cat.hokudai.ac.jp・011-706-9145)